

**次代につなぐ防火の知恵！
～京のまちをみんなで守ろう！！～**

**これまで多くの大規模火災に見舞われてきた京都。
地域に息づく“火の用心”の文化をどのように継承するか。**

次代につなぐ防火の知恵！

～京のまちをみんなで守ろう！！～

- 開催日時：2020年11月30日（月）13:30～15:30
- 開催場所：京都御池創生館 地下1階
- 参加者：14名
 - 一般参加（市民・民間企業ゲスト）：7名
 - 京都市職員（市民協働ファシリテーター研修受講生）：7名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的として、マスク、フェイスシールドを付けて開催。



開催背景

- ・ 継承されてきた防火に関する知恵や取組が衰退しており、「火の用心」の意識の薄れが指摘されている。
- ・ 減災文化について今一度見つめ直し、後世に引き継いでいくことが必要である。

<なぜ減災文化が必要か>

- ・ 京町屋が立ち並ぶなど、古くからの街並みが残り、緩やかなコミュニティが息づく風情が「歴史都市・京都」の魅力となっている。
- ・ 京町屋や古くからの街並みは、道が狭く、住宅が密集しているため、地震や火事などの有事の際には、家が倒れて道が通れず、火の燃え広がりが早いことから、緊急車両が入れないなど救助が遅れる恐れがある。
- ・ そこで「火の用心」で普段からの意識啓発を行うとともに、防災訓練により有事の際の対応をできるようにしておくなど事前の備えを行うことで、有事の際の被害を減らすことが期待できる。

本ワークショップにおける問いとゴール

- ・ **問い：どうすれば防火の知恵について子どもが学び、地域の取り組みにつなげられるか。**
 - 1 昔から地域や家庭で実施している、または知っている火事への備えや取組とは。
 - 2 先に考えていただいた備えや取組が減ってきている理由は。
 - 3 取組がどのようなものなら参加したいか。
 - 4 子どもと一緒にしたい、できると思うもの、または、子どもにも参加してほしいと思う防火の取組は。
- ・ **ゴール：先人から受け継いだ京都の街並みを火災から守るため、今の暮らしに合わせた誰もが参加しやすい減災の取組を考える。**
 - 1 京都で培われてきた（または参加者が知る）防火の取組とは
 - 2 子どもが率先してできる防火の取組とは
 - 3 地域として子どもや大人ができる防火の取組

1. お互いを知る（チェックイン）：ストーリーテリング

- ・ 進め方，ルールの説明。「京都で好きな文化は？」というテーマで，2人組で対話。その後，2人ずつの話を全体に共有。

2. 問いの共有

- ・ 全体進行役から減災の知恵や取組の現状と大切さについて説明。

3. 課題の洗い出し（ワールドカフェ）

- ・ 「昔から地域や家庭で実施している，または知っている火事への備えや取組」と「先に考えていただいた備えや取組が減ってきている理由」という2つのテーマで，途中メンバーを入れ替えながら，グループで対話。

4. 課題解消への提案（ブレインストーミング）

- ・ 「取組がどのようなものなら参加したいか」をテーマに，グループで改善案を提案。

5. 企画の考案（マグネットテーブル）

- ・ 出てきた取組案を参考に，子どもと一緒に取り組める企画を考えてもらい，近い取組案を考えた参加者同士でグループになってもらう。

6. 企画の具体化（クイックプロトタイピング）

- ・ 「来年度，地域で行われた防災に関する取り組みが〇〇新聞の記事になった」と仮定し，記事を作成する。

7. 発表

- ・ 各チームのアウトプットの発表。

8. 振り返り（チェックアウト）

- ・ ワークショップを通じて，発見したこと等を踏まえて数名の感想を全体で共有。



課題の洗い出し



新聞記事の発表

これまで行われてきた減災文化の取組

(1) 地域ぐるみの取組

- ・ 消防団の夜回り（火の用心）
- ・ 防災（消火）訓練
- ・ 避難所運営マニュアルの作成
- ・ 消火器や防火バケツ等の設置



(2) 個人（家庭）での取組

- ・ 食料，飲料の備蓄
- ・ 避難マップの確認
- ・ 避難時の集合場所の確認
- ・ 家の周りに燃えやすいものを置かない
- ・ 自宅に井戸を掘りポンプ・非常用発電機の設置

(3) その他（社会ぐるみ）の取組

- ・ 放火火災予防デー（11/11）の取組
- ・ 防災センターの設置
- ・ スプリンクラーの備え付け
- ・ 小学校での防災授業の開催



減災文化の継承を妨げる大きな要因と対応策

◎減災文化の取組が継承されていない理由

地域での意識啓発が行き届かない

- ・ 住環境の変化による地域コミュニティの衰退
- 若い世代は**つながりを必要としていない**
- 自治会の活動内容を知らない
- ・ 取組への参加者が減っている
- 取組の**必要性を知らない**
- 取組の**内容が形骸化**

維持管理が大変

- ・ 防災機器の置場所
- ・ 防火バケツの水の入れ替え
- ・ 消火器の定期更新

自分ごとになっていない

- ・ 災害の実体験がなく、**恐怖心がない**
- ・ **戦争や大地震**などの歴史はよく聞かすが、**身近な火災**などの話は耳にすることが少ない。

その他

- ・ 防災に関係したまちづくりが進まない

◎こんなものなら参加したい！

地域での意識啓発の対象を増やす

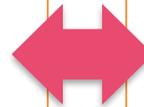
- ・ **自治会**に加入していなくても、取組には参加できる
- ・ 防災訓練を**小学校の参観日や運動会**などと併せて実施
- ・ 取組に**ゲーム性**を持たせる
- ・ (大学) 学校の授業(単位)に組み込む
- ・ 参加するとお金(景品)がもらえる
- ・ SNSなどを利用して**自宅にいても**参加できる

自分ごとで考えてもらうきっかけを作る

- ・ 地震体験施設での体験をする
- ・ 煙発生装置を使った火災体験をする
- ・ 住居構造別で防災訓練などを行う
- ・ 有事の際の課題を知る
- バケツには事前に水を溜めておかないと、水を溜めるのに時間がかかり初期消火が遅れる
- 大災害時の他都市からの支援状況

その他

- ・ 居酒屋で防火について語る
- ・ 企業とコラボした啓発活動



1年後，新聞の記事になった地域で実施された防火の取組



「きょうと龍吐水新聞」

親子防災フェア始まる！

防災グッズを「作る」，「使う」を一緒に行う取組。

(具体的な内容)

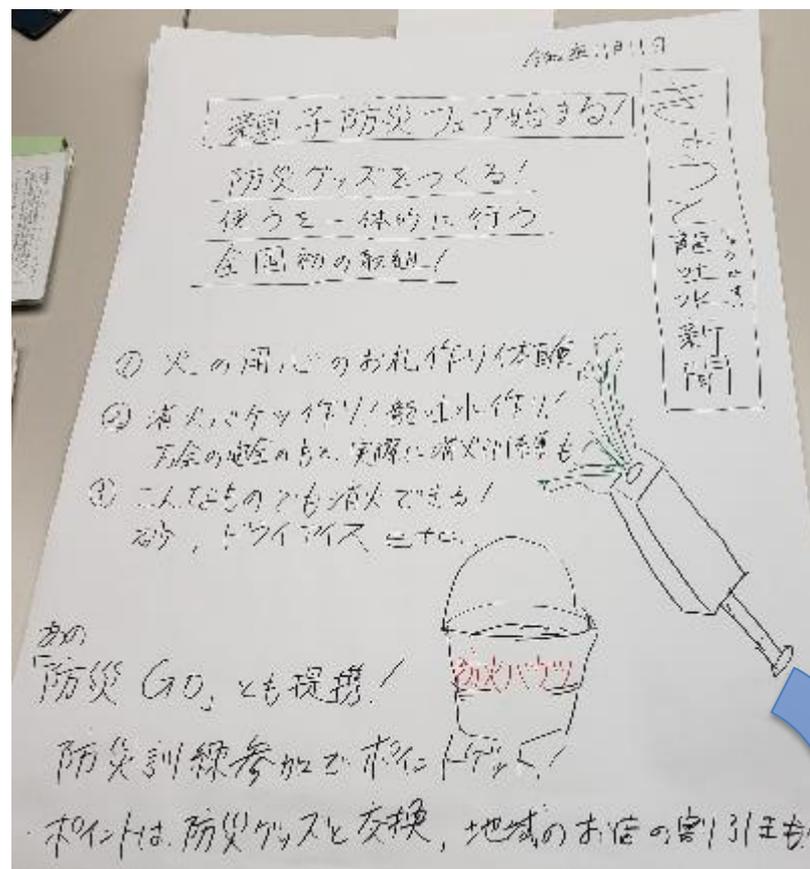
1. 火の用心のお札作り体験
 2. 消火バケツ及び龍吐水作り！
万全を期して実際に消火訓練も！
 3. こんな物でも消化ができる
砂やドライアイスを使った消火体験
- ・「防災Go」（仮想）とも提携
 - ・防災訓練参加でポイントゲット！
ポイントは防災グッズと交換や
地域のお店の割引にも使える

(狙い)

使うだけでなく作って体験することで，記憶にも残りやすい。

また，作ったものを持ち帰ることで，参加してなかった方への周知にもつながる。

自身で作ったものなら大切に使われ，長く残っていく。



龍吐水（りゅうどすい）

1年後，新聞の記事になった地域で実施された防火の取組



「防災京都新聞」

無火災都市の実現を目指して！

(具体的な内容)

火災が発生し，消防車の到着まで地域住民が初期消火に尽力した。その中でも児童が目覚ましい活躍ぶりであった。

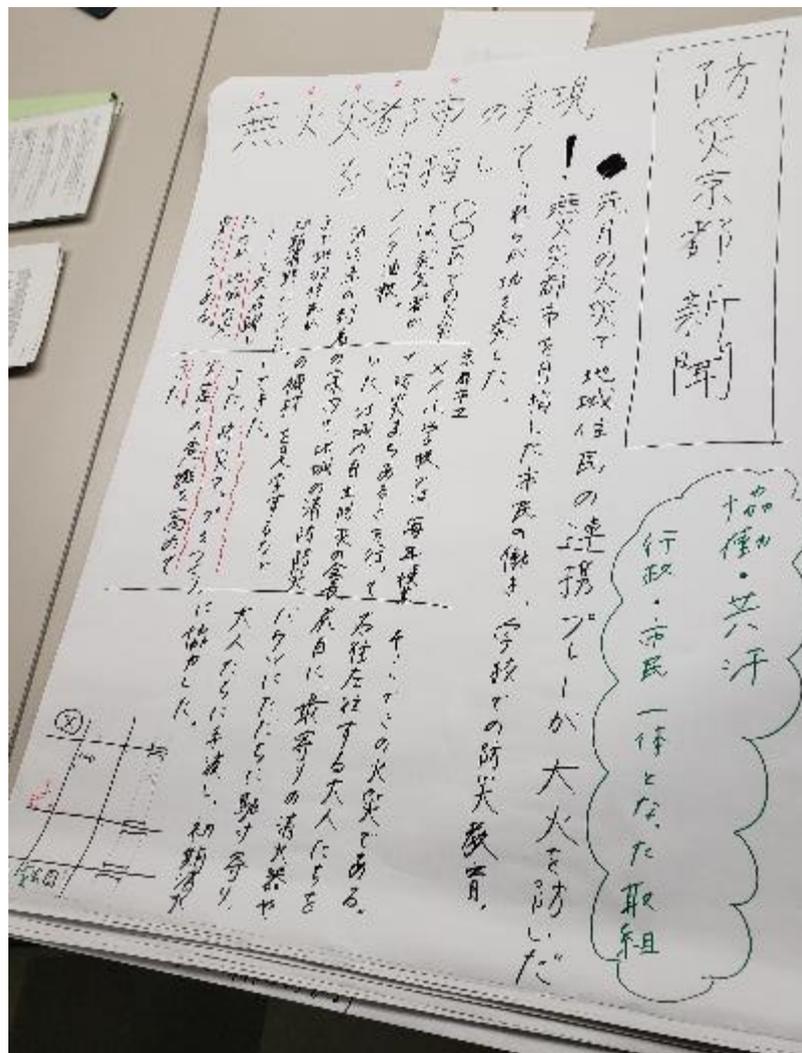
この活躍の裏には，小学校の授業で行われている防災まちあるきがある。自主防災会の会長案内の元，まちあるきを実施し，その結果を踏まえて防災マップが作成され，災害への意識の向上につながった。

大人ではなく，子どもが最寄りの消火器や消火バケツを集め，消火活動に大いに貢献した。

(狙い)

授業の一環として組み込むことで，地域活動に参加していない家庭にも，子どもから防災について周知・啓発を行うことができる。

まちあるきの案内を地域の方がすることで，子どもは地域とのつながりができ，地域活動についても知ることができる。



1年後，新聞の記事になった地域で実施された防火の取組



「家は燃やすな心を燃やせ新聞」

全国初！！火滅の防火訓練～VR編～

(内容)

- ・ 小学校でVRを使った防災訓練を実施
- ・ VR体験で，地域の小学校を舞台に鬼が火災を起こし，体験者が火を消して退治する設定。
- ・ 親子が多数参加し，防火の重要性を学んだ。

(狙い)

最新機器を使うことで，集客が見込める。

実際には体験できない火災をVRを通して体験できる。

ゲーム性を持たせることで，子どもから大人まで，楽しく防火の大切さを学んでもらう。

